

学科名	生物環境化学科、電気通信工学科、建築・デザイン学科、情報学科、経営ビジネス学科						
科目名	教育相談						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	3年次前期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場での諸問題の現状(文部科学省による定義、具体的発生数・認知数等)について、実態を説明できる。 ・上述の諸問題について、典型的・基本的な対応方法を理解し、具体的に実践することができる。 ・教育相談に関する用語の意味と基礎的な方法を説明できる。 ・カウンセリングの基本的理念や技法を説明できる。 ・子ども理解に関わる主要な心理検査の種類とその特徴について説明できる。 						
日程と内容	<p>4/9 導入講義(授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示)および「教育相談」の定義の説明 4/16 教師に望まれるカウンセリング・マインド①～カウンセリング・マインドとは何か:基本概念の確認～ 4/23 教師に望まれるカウンセリング・マインド②～具体的な技法とトレーニング方法～ 5/7 児童・生徒の理解①～パーソナリティに関する諸理論～ 5/14 児童・生徒の理解②～発達に関する諸理論～ 5/21 児童・生徒の理解③～心理検査とその利用:知能検査と人格検査について～ 5/26 自分自身の心を知る①～心理検査を利用した自己分析の実践～ 5/28 自分自身の心を知る②～教育相談の具体的な場面から～ 6/4 自殺の問題と「不登校」の問題 6/11 いじめの理解と対応 6/18 非行への理解と対応 6/25 性に関する問題の理解と対応 7/2 障害児の理解と対応 7/9 児童生徒の心の問題と疾患 7/23 各関係機関との連携および今までのまとめ 7/30 最終試験</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題 演習		計			100%	
授業到達目標の達成度	<p>学生が持っている教育現場や教育問題への素朴な疑問(いじめはなぜなくなるのか、現在の子どもの心はやたらと病んでいないか、など)を、初回の感想カードへの記入から拾い上げ、講義内でできるだけその疑問に応えられるように心がけた。例えば、直近のデータやマスコミ報道などの現実的にもとづく情報を提示し、また、それらの教育問題について自分自身の意見論述を求めるワークシートの提出を複数回求めた。このように、学生自身が問題をより現実的かつ主体的に考え、また自分の意見を述べる機会を講義中に取り入れることで、授業目標はある程度達成されたと捉えている。</p>						
反省点	<p>3年生の受講者が中心であるためか、ワークシート等で、「教育実習において、教育現場で生徒達と上手に関われるかどうか不安だ」という学生の意見がたびたび見られた。講義の中で、ケーススタディ的なエピソードを取り入れてそれらの対応について考えてみるなど、さらなる実践の工夫を行なっていく必要があると感じた。</p>						
来年度の計画	<p>1年次に教育心理学を受講している前提のクラスではあるが、心理学の初学者を想定したペースで進行した。来年度も同様に、学生が講義を理解できるペースで進めることを常に意識して進めていく。データや情報も最新のものを提示し、近年の教育現場の問題を実感し、主体的・能動的に自ら考えて取り組む機会を取り入れた講義を心掛けた。</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>全体的に平均値以上の評定であり、一定の授業の質を得られたと考えている。受講者の態度も今期は大きな問題はなく、積極的に聴講し、ワークシートもしっかり記入している学生が増えていると感じられた。ただ、予習・復習に関する項目では全体的に時間が少なかったようであり、自学自習の推進が課題の1つであると考えている。自由記述による評価では、「面白く興味をかりたてられる内容だった」「教育者として相談の対応をの仕方を学ぶことができた」といった肯定的なコメントが得られた。また、4年次の教員採用試験対策にも活用できるようにプリント配布形式にしているが、これについても肯定的なコメントが得られたため、継続して行なっていきたい。</p>						
履修登録者数	37名	定期試験 受験者数	36名	合格者数	32名	合格率	89%